

## "史料室だより" 発刊にあたって

室長 齋藤 浩 二

東洋英和女学院史料室委員会が設置されたのは昭和50年4月でした。勿論それ以前にも、学院の史料の散逸を防がねばならぬこと、各所に眠っているであろう貴重な史料を掘り起こし体系的に収集整理しなければならぬことは意識されており、例えば長野元院長が黒川教頭に託された何点かの重要史料が封筒に入れられたまま中高部に保存されています。また石井前院長がその在任中、カートメル先生以下歴代の校長・院長の事蹟を景仰ししばしばそれを語られたことは記憶に新しいところです。いずれも、先人達の志向、足跡の上に後進の我々を励まし、正し、新しい発想を示唆してやまない力を見出していらっしやっしたしるしでしょう。史料室委員会は、石井先生在任中最後の年に設置されたものでした。

史料室委員会二年余の歩みは摸索の一語に尽きます。初仕事は短大図書館内の一室の半分を史料室として貸して頂くことでした。月一回の定例委員会をきめました。全員が揃うことは困難でした。青山学院には完備した史料室があることを耳にし、委員の何人かがこれを見せて頂きに出かけ大きな刺激を受けました。都の公文書館に設立願以下、都(府)へ提出した文書が残っていることを知り、設立当初のものだけは写してきました。カナダミッションの年会報告書を求めて関西学院

図書館に向向しましたが、これは東洋英和に関する年度を発見できず、将来の調査課題として残ってしまいました。上田朝、新井竹両先生をお招きして戦前の学校の様子についていろいろお話を伺ったこともあります。旧教職員の思い出を残すことはこれからも続けなければならない大切な仕事のひとつと考えています。

現在までに残されている史料をどのように発掘し、どのようなシステムで整理するかということと並んで、もう一つ重要な課題は、今も毎日毎年生まれている新しい史料を、各部ではどのように保存して頂き、史料室としてはどの部分を直接に収集するか、どの史料はどこにあるということ全体を把握するにはどのような方法をとったらいいかということです。昨年度から委員会内で史料のカード化をめざし、分類記号を考えてきたのもそのためです。この点は一応のめやすをたて終わり、カード作成を開始しています。

この仕事に参与して痛感することは、総じて近年になるまで基本的な史料が十分に保存されていないことです。心からご協力をお願い致します。  
~~~~~ 伝統によって  
培われた力が、主の賜う叡知の光に照らされる時、われわれはそこに新たな希望と確信をもつことができる。(九十年小史P.19より)

## 史料室委員会の歩み

委員長 中野 登美子

史料室委員会は、代表者会の要請により1975年に新設され、当初は委員会の方向づけ、具体的な仕事の発掘など、基礎的な作業から始まった。やがて創立100周年を迎えるという永い歴史を語るものは、「東洋英和女学校五十年史」であり、「東洋英和女学院六十五年小史」「東洋英和女学院七十年誌」「楓園史」「東洋英和女学院九十年小史」などであるが、それらの資料となったもの、又、震災や戦災で失うことの少なかった様々の記録、学院の消長をあらわすにふさわしい物件は、一体どこに眠っているのだろうか。だがそういうものに頼らなくても、この東洋英和と共に歩み続けた多くの卒業生、教職員によって折にふれ、時につけて古き良き時代の事どもは語り継がれて来た様である。いわば、口伝(oral tradition)の1世紀である。だがこれからは現代にふさわしくすべてを整理し、客観性のある、そして具体的な形で過去を保持し表現すると共に、今後更に続けられる東洋英和の歩みを正確に記録し、必要なものをのこして歴史に組み入れてゆかねばならない。しかも機械的に作業するのではなく、東洋英和がその学校教育を通して何を世に問うて来たか、又これからも問おうとしているかを明らかにしなければならぬだろう。委員会の第1年目にはこの様な事がしきりに語り合われる一方、創立当初の資料を得るため、東京都公文書館での閲覧、写真撮影を行ったり、青山学院、明治学院、関西学院を訪問して、史料室関係の実情や、年史編纂の経過等について話を伺う機を得た。又、卒業生で

ある旧教職員をお招きしての懇談会も行われた。更に、史料室としての機能を果たすため、短大特別資料室の利用が許され、第2年目には12万円の予算も計上された。その活動方針としては、

- ① 学院各部の資料整理
- ② 既存資料保存の方法について
- ③ 資料を分類するための項目の設定
- ④ 史料室だより発行
- ⑤ 委員会としての研究推進

等が挙げられたが、①及び③の件につき集中的に作業が行われた。この間、各方面から写真、出版物、印刷物等、多くの物件が提供され、今後の収集に明るい見通しが与えられた。

昨年度より法人本部が発足したのをきっかけに各部で処理出来ない理事会、学外関係、戦時中の諸記録等の整理は本部扱いとし、当分の間、斎藤純子氏を囑託として迎え、保存状況などの調べを願っている。

本年度は第3年目に当るが、既に設定された項目に従って資料の分類を行い、カード記入やカード分類の作業をすると共に、足を使っての収集「史料室だより」の発行によって学院内外に委員会の活動内容を伝え、協力を求めたい。年間総予算は30万円。代表者会より、(正式の編集委員会発足は1,2年後となるにしても)、「100年史」編纂を目標としての活動が期待されている。

目下、委員会は毎月1回開かれているので、ご意見等は各部の委員を通してお寄せ頂ければ幸いです。

## 資料の収集と整理

芝原 翠(短大)

一昨年(2017)の7月18日暑い日に朽木先生と「写真による学院史『青山学院100年』」の編纂にあたられた青山学院大学事務局長の松田重夫氏をたずねて歴史資料、戦後のものの集め方、その組織づくりなどのお話をうかがった。長年にわたって丹念に集められた資料はすべ

てカード化されて、学校の歴史・沿革、土地・建物、制度、規則、学事、行事、教育方針、宗教活動等々の項目別にファイルされており、しかもこれらのカードから更に人名索引、記事索引のカードも作られてあった。このように資料が整理されていると、ある事柄を探するとき簡単に関係資料の所在を見出すことができるでしょう。この資料の蓄積の努力と整理の緻密さにはため息が出る程びっくりした。資料そのものは図書館等に収められ

ている。写真資料は一定の大きさに複製されアルバムに貼って保管されている。創業期の功労者の方々の写真、歴代院長の肖像画、校舎の写真、教員・生徒の写真その他書・画等が展示してある「宗教センター・ウエスレーホール」も拝見した。

さて、わが校の史料室委員会の活動は、まず本部、幼稚園、小学部、中高部、短大の各部にある資料を史料室保存と各部保存とに区分し、「史料室用分類表」を作って資料を一点一点カード化する作業が各部で進行している。一方資料の発掘は

続けられており、ミッション関係、学校関係の方々へ協力をお願いして徐々に追加されている。

昔の教員や卒業生の方々から当時の様子をうかがう談話聴取の会も行われて、テープに収めて貴重な資料になっている。しかし、これ等のお話もできるだけ文献の裏付をしていきたい。

校服について『昭和二年始めて校服を定めた』(五十年史P.14)と『昭和四年三月校服を制定した…』(同P.21)とあるが、これは昔の先生手持ちの写真に現在の校服

委員会ができて間もない頃、東京都公文書館に学校の設立申請書等の公文書があると聞いて出かけた。明治17年各種学校と墨書された厚さ10センチ程の部厚い和と同じ書類の頁をくるうちに、9月に初めて出した申請書が書類不備で差し戻しとあり、10月にやっと正式な書類が出てきた。さっそくコピーが、事前に写真撮影のみ許一をと思ったいを出せば写可されるとい

公文書撮影記  
朽木久子(中高)

うことで、出なおすことにした。半年程して、沓沢先生をカメラマンに、栗原先生を助手にして撮影に出かけた。設立当時のもの、翌年のカリキュラム等の大巾改正の時、大正7年高等女学科に改正の件、昭和4年の5年制改正の申請書を撮った。栗原先生がライトをもって頁をくり、沓沢先生が撮影した。番号をつけなかったので現像したら順序がわからなくなったが、筆写より正確である。

以前の校服を見ることができた。これも複製をさせていただかねばならない。

カナダミッションの土地東鳥居坂町十三番地と婦人ミッションの土地十四番地(同P.4,20)はつい最近古地図上で確認することができた。

## 資料提供のおねがい

中 沢 和 子 (短大)

ご協力をお願いいたします。

史料室委員会はこのように仕事を始めましたが、ここでぜひ皆様にご協力をお願い申し上げたいのです。東洋英和 100 年の歴史を物語る資料をお持ちの方、ご存知の方は、委員会にどうぞお知らせ下さいませんか。お願いしたいものは次の通りです。

こんなものを

### ◎カナダミッションについて

残念なことに、創立以来のカナダミッションについて、殆ど資料がないのです。先生方のお写真お役目やお人柄をしのぶ手紙、記念品、記録などお持ちの方はないでしょうか。

### ◎学校の規約、規則を知るもの

卒業証書、卒業写真、資格証書、学則、生徒心得、寮規則、証明書、通知など。

### ◎教育内容を知るもの

教科時間割、成績通知表、教科書、テキスト、ノート、作文、授業内容を示す写真など。

### ◎式典や行事の記録

案内状、プログラム、報告書、写真など。

### ◎風俗をあらわすもの

生徒・職員・父母の服装や習慣を知ることができる写真、衣類・持物 学用品などの実物。

どの時代まで

上記のものは、昭和35年以降はほぼ学院で保管できています。第二次大戦中と戦前のものについて、特にご協力をお願いします。

こんなふうにして

資料には年代、所持者、製作者などできるだけ書き添えて下さい。写真は撮影の場所、人物の名前などわかる限り別紙に書き添えて下さい。

大切なものは

資料には、かけがえのない大切なものもあると存じます。その時はしばらく拝借して委員会でコピー・写真をとり、間違いなくお返し致します。またご寄贈頂けるものは、短大図書館内史料室で管理し、長く保存します。

お知らせは

史料室委員は幼1人・小・中・高・短大に各2人います。どこでもお気軽な部にお知らせ下さい。東光会、各部同窓会でもお取次ぎします。

ぜひこの際に

もしこの際に、思い出の手文庫、お形見の品々、棚の奥、たんすの底などお改め頂くことができれば、この上ない幸いと存じます。

## あ と が き

委員会が発足して2年を経たが、国内・国外にある史料を得ることはなまやさしいことではなく、90余年の歴史の大きさと重さを思われる。史料委員会が、まずその入口にたったところをこの1号で紹介することになった。主の恵みと導きの中を歩んできた東洋英和女学院の姿が、史料の形をとって神のみ前に捧げられるようにしたいと念じている。この紙面を2号、3号とおもしろ味のあるものにしていきたい。(倉本・野田-小学部)